

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名：大竹市

1 要旨

大竹市の森づくり事業(交付金事業)を実施するにあたって、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、大竹市の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
景観保全林				
防災・減災林 (特認含む)	里山林の手入れ不足により、近隣住民が危険な状態にある。	里山林の放置や手入れ不足により、近隣住民が危険な状態にあるため、効果的な里山林整備が課題となっている。	里山林の放置により、住民が危険になる状態が懸念されるため、定期的な整備の行われる里山林を目指す。	危険状態の顕著な地域より森林整備を行っていき、その効果が維持されるような取組を実施する。
地域資源活用林 (特認含む)	大竹市を代表する観光スポットである亀居公園周辺が、手入れ不足によって荒廃が進んでいる。	亀居公園周辺の荒廃によって地域の資源としての価値が低下していることから、公園周辺の森林・竹林の整備と、継続的な整備体制の構築が課題である。	協議会・地元住民により定期的に整備が行われ、地域資源として価値のある里山林を目指す。	森林・竹林の整備、植栽などを行い、地域資源が活用されるよう支援する。また、協議会や地元住民による定期的な整備が行えるような体制を構築する。
環境緑化保全林				
鳥獣被害防止林				

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制 森林整備を行う者 (森林ボランティア団体) (住民団体等) (小規模林業経営者) ※主体別に記入 森林整備を助ける体制 (森林資源の継続的利用)	・大竹市においては、現状として森林ボランティアを行う団体が存在せず、またそのような団体が育ちづらい環境である。	・市民や地域が一体となって森林を守っていく体制が構築されている。	・森林・林業体験活動支援事業等を活用し、ひろしまの森づくり事業の周知を図るとともに、市民・地域一体となって森林を守れるような支援を行う。また同時に、森林ボランティア団体が育ちやすい環境を作る。
取組への理解促進 参加拡大による理解促進 事業の理解	・「ひろしまの森づくり事業」への理解は得られているように思えるが、期待しているほどの認知度までいっていないのが現状である。	・市民が「ひろしまの森づくり事業」のこと、県民税の使い道や効果、実績を十分に理解している。	・県と連携した広報等を活用することで、事業の効果を市民に広く発信する。 ・事業実施箇所において、森づくり事業で整備した旨の看板等を設置し、PRを行う。 ・「ひろしま山の日県民の集い」などのイベントを開催し、多くの市民の参加を得る中で、森づくり事業について知ってもらう機会を設ける。